

関連項目：教育活動プラン①、⑤

児童が活躍する場を設定し、評価カードを活用して自己有用感を高める

目的

本校の児童は明るく元気な学校生活が送っていますが、一つの目的に向かって関わり合って活動できない面もあります。そこで、何のために、誰のために、と自分の生活や行動に問いかけながら活動し、評価してもらうことで、自己有用感や人のために役立とうとする意識を高めていくことにしました。

内容

● 目標設定は児童の手で行う

○ 生徒指導目標への取り組み

「げんきじまん」「あいさつじまん」「なかよしじまん」の3つの学校自慢を柱にして、より良い学校にしていくために学級や代表委員会で相談し、実践しています。また、道徳や学習活動の場面でも、自己決定する場を大切にしています。

○ 月目標への取り組み

あいさつ目標や生活目標について、学級で話し合った後に代表委員会で決定し、具体的な取り組み方法についても話し合っています。児童の自主性を尊重し、自分たちの立てた目標を自分たちで達成するために各学年が交代でリーダーとなり、放送で呼びかけたり、賞状を渡したりするなど、それぞれの学級が工夫して取り組んでいます。



【廊下歩行の取り組み】

○ 欠席ゼロへの取り組み

全校生が欠席ゼロの日の日数を更新しようと、「先生あのねカード」や「みんなの声ポスト」を活用し、精神面や健康面に気を配りながら、めあてに向かって取り組んでいます。昨年の実績をもとに本年度の目標を設定しましたが、現在、昨年の記録を大きく更新し、67日を達成しています。

● 活躍の場を広げる

○ なかよしキッズタイムやふれあい活動などの縦割り活動での取り組み

ふれあい体育・ふれあい給食など、違う学年の児童や教師と共に活動することにより、異学年の児童と活動する楽しさを感じとりながら、互いの温かい人間関係を育むようにしています。また、児童と教師がふれあう機会を増やし、豊かな心を育む支援を行うために、月に1回の昼休みに40分間全校生と教師が共に遊び、心を通わせたり、学習では見られない児童の良さを発見したりするようにしています。そこでは、上級生は計画を立てたり、リーダーとなって下級生の世話をしたりするようにしています。下級生は協力する大切さを学ぶと共に、上級生の良いところを真似たり、グループの一員として自覚して行動できるようにしています。



【ふれあい活動の取り組み】

● 評価カードを活用し、賞賛する

○ 「スマイルカード」の取り組み

児童が存在感や有用感を味わい、自分を好きになれるようにと、教師が子どもたちの良さを見つけきちんと伝えようという取り組みを行っています。教師が見つけた児童の良いところをポストイットに書き込み、職員室に掲示して全員の良いところを見つけるよう心掛けています。そして、それを月末に個々にプレゼントして、家庭にも知らせています。また、2学期からは、この活動を学級でも行い、互いに友達の良い所を見つける活動も行っています。そして、良い行いが次の良い行いへと結びつくようにしています。



【「スマイルカード」の取り組み】

成果

自分たちの立てためあてに向かってがんばるという方法は、児童の自主的な活動を促し、様々な取り組み方法を生み出しました。縦割り活動では、上級生が核となって学校を楽しくする活動を考え、共にふれ合うことで全校生が分かり合えるよい機会となっています。また、「スマイルカード」の活用では、自己有用感が高まるだけでなく、みんなのために進んで行動する子が増えてきています。